

それぞれの利用者が求める言語情報を「それぞれの求める形で」提供する次世代型辞書の開発

人文社会系 教授 矢澤 真人

- ① 辞書を「書籍や機器」から「使用者の求める言語情報提供サービス」と再定義
- ② 使用者の言語能力、用途、環境に応じた個別対応型辞典のための基礎研究
- ③ 言語活動対応型辞典の開発および電子辞典活用プログラムの開発を進行中

従来型国語辞典の課題（書籍型・電子型）

書籍...作業が中断する／読めない言葉は引けない／五十音順が分からないと引けない／見出しに合う形に整えないと引けないなど
電子...操作が煩わしい／発達段階に応じて買い替えが必要／検索法など情報提供サービスの改善 など

次世代型国語辞典の基本構想

3つの設計方針... (1)主たる言語活動を妨げないこと (2)言語情報提供サービスであること (3)社会構造へ対応すること
 4つの要件... (4)個別対応性 (5)汎時性 (6)多言語多文化性 (7)付加価値性

小学生向け説明的文章作文支援辞典の開発と国語辞典のリーダビリティに関する研究プロジェクト

説明的文章作文支援辞典の開発

子供達が作文を書くにあたり、**文型が妨げとなるケース**

- a. この絵の特徴はどの角度から見ても女性と目が {×合います／○合うこと}です。
- b. この絵の特徴は杜撰な修復のせいで {○消えてしまった／×消えてしまったこと}だ。

➤ **語だけでなく文型を支援できる国語辞典が必要**

国語辞典のリーダビリティ

論理語と学習用国語辞典の語釈に含まれる語の難易度を調査：jR値／アンケート（小学3・6年、帰国子女6年）

	jR値	小学3	小学6	帰国6
[機能]	3	1.8	2.0	1.4
[作用]	2	0.8	1.9	1.3
[理解]	3	1.9	1.9	1.9
[道筋]	2	0.4	1.7	0.7

(数値小：難易度が高い)

➤ **jR値（日本語教育における難易度値）が利用可能。外国にルーツを持つ子供への対応も。**

➤ **学習段階に応じた語釈語彙を選定しなおす形で辞書をカスタマイズ。**

小学生の国語辞典利用実態の調査・分析と電子辞典を活用した小学校の教科融合教育に関する研究プロジェクト

実態調査・分析

小学生による辞書引き活動の実態を調査

結果① 語釈が理解しにくい場合や見出し語を見つけれない場合がある

【要因】語釈が非網羅的／例文の提示法が不適切、語構成の理解が不十分 など

➤ **結論①：やはり学習国語辞典の記述が生徒の理解を妨げているケースがある**

結果② 成績上位者と下位者では検索速度に大きな差がある

【要因】上位者は初めに開く頁が検索語掲載頁に近く少しの調整で辿り着き、下位者は遠くその後のめくり時間に時間を掛けている

➤ **結論②：成績上位者と下位者で検索法に大きな差が見られる**

電子辞典の活用

結論①→掲載内容が書籍型と変わらない現行の電子辞典では解消できず、**電子辞典ならではのコンテンツが必要**

➤ **マルチメディアによる情報提供、多様な情報検索、学年(能力)対応型の語釈**

小学校における電子辞典活用の実態を調査

➔書籍型使用時に比べ、言葉調べで手を上げる子供の数が増えた／言葉調べで意味を記入する分量が増えた／調べた言葉を互いに参照しあう場面が多い

➤ **結論②の課題の解消の可能性：情報教育機器としての電子型辞典の活用の提案**

情報の過剰と欠損に注目した小型国語辞典の語釈書き換え研究プロジェクト

調査概要

- ・一般向け国語辞典と学習用国語辞典には、収録語数に約4万語の差
- ・一般向け国語辞典の語釈から学習用国語辞典レベルの語釈を導く方法を検討

➤ 一般向け国語辞典の語釈中の語を学習用国語辞典の語釈で書き換え

例)「構造」

機能や組織などの、全体を成り立たせる内部の組み立て。仕組み。

➤ [動力により、同じ運動をくりかえして仕事するしかけ。マシン。] や [人々が集まって、まとまりのあるものになった集団。また、その集団を作ること]などの、[物事の全部。すべて。...]…

調査結果

単なる書き換えでは冗長になる

➤ 語釈は「**語釈部分（核情報＋説明情報）＋言い換え語部分**」という構造を持つのではないか

➤ **情報の重要度や役割に差があるのではないか**

今後の課題

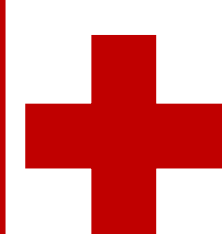
核情報・説明情報・言い換え語部分のそれぞれについて

- 情報の重要度や役割の分析
- 自動的に区分する基準の設定

Difference

「辞書」の再定義による「個別対応型辞典開発」という戦略

戦略を具体化する複数の現実的なタクティクス



タクティクスを支える研究力と研教連携、産学連携、分野横断、国際協力の研究支援環境

最新の作文データを確保(科研費)／学校・出版社・電子辞典メーカーとの連携／国内外の大学との連携／教科書編集・辞書編集の豊富な経験 など